

## 准胝観音

この新光明寺は静岡新西国三十三箇所観音霊場の十一番札所になっておりまして、以前は准胝観音が祀られて居たそうですが、いつの頃からか全くその記録すら残さず、ただ十一番の札所と云うことしかわかりませんでした。新光明寺を伝馬町からこの地へ移転するより少し前に、当時の住職泰彦上人が古文書に記されている姿を元に京都の仏師様にお問い合わせをして、今のお姿をお祀りする様になったそうです。

准胝観音さまは、誠に靈驗あらたかで、その功德ははかり知れないと伝わっております。

准胝観音は六観音に数えられ、そのお像は聖観音や十一面観音のように多くは見かけられませんが、「七俱胝仏母准胝観音」とも呼ばれておりますが、准胝とは「清浄」を意味し、俱胝とは数の億を意味します。七俱胝とはつまり【七億〓無量】と置き替えることが出来、その意味するところは、功德が広大無辺ではかり知れない観音様ということになります。

お経によれば、准胝陀羅尼を唱えると

- 一、仏様の光明に照らされて持っていた罪障がみな消滅する。
- 二、寿命がながくなる。
- 三、福德智慧が増進する。
- 四、諸仏や諸菩薩に守られて、悪趣輪廻から離れ極楽に往生できる。
- 五、聡明になる。
- 六、物事の善・不善、成就・不成就を知る。
- 七、争いごとに勝つ。
- 八、夫婦仲が悪くても、祈れば仲睦まじくなり、子も授かる。
- 九、小児の夜泣きが止む。
- 十、持病が治る。
- 十一、雨が欲しい時に雨を降らせる



とあります。

醍醐天皇が子宝を求めて求児法の修法を行ったところ、朱雀、村上両帝を授かったということで、徳川時代まで婦人の守り本尊として香盒仏に彫られたりしていたようです。

そのお姿は一面三眼十八臂で造られており、十八の手の中央三つで「説法印」と「施無畏印」を結びその他の十五でそれぞれ持物を執っています。

当山ではその広大な功德を福スズ守りや厄除け守りに込めております。

【真言】 オン・シャレイ・シュレイ・ジュンテイ・ソワカ